

# ペット用品産業は拡大傾向

## 赤津功一会長インタビュー

日本ペット用品工業会(略称JPPMA) 顧問 小鳥 小動



日本ペット用品工業会は、犬や猫だけでなく、物、昆虫、爬虫類など「オールペット」での生活を創造することなどを理念に、安全安心なペット用品の製造・販売や、正しい使用方法の啓発などに取り組んでいる。犬の飼育頭数が減少する中、同工業会が目指すペット産業の在り方について赤津功一会長(トヨタス会長)に取材した。

「まずはペット用品産業の動向についてお聞かせ下さい。」  
「当工業会が毎年実施しているペット用品産業実態調査では、17年度(17年4月～18年3月)の出荷総額は1600億5700万円(前年比102.6%)と拡大した。犬、猫、観賞魚、小動物、小鳥、昆虫、爬虫類の7カテゴリー全て増加し、主要な犬用品は1012億9800万円(102.5%)、猫用品は344億4600万円(102.4%)と市場と同水準で推移し、目立つところでは小動物用品が9億1200万円(106.9%)、0万円(107.2%)と、昆虫用品16億1700万円(107.2%)が大きく伸びた。」  
「一方、犬猫の飼育頭数をみると、ペットフード協会による調査では、犬の飼育頭数は過去5年減少傾向にあり、17年には900万頭を割り、猫は18年から3年連続で増加しており、17年以降950万頭を超えている。数字的な動向はこうした内容になるが、当工業会では、この先をどうしていくかが重要だと捉え、根本的な施策での産業の活性化を目指している。」  
「その根本的な施策とは、」

「まずは初心者でも飼いやすい金魚、メダカ、小鳥、ウサギ、ムスタール、カブトムシなどからペット飼育の底辺を大きくすること、ここに主眼を置き、啓発の必要がある。ペット産業では、売上構成比が最も高い犬の飼育頭数の減少が課題だが、その原因の一つは、フリーターの減少による犬の価格の高騰にあるとも言われる。犬の飼育頭数を回復させる際は、まずは飼育対象のすそ野を広げ、より飼育が簡単で無理なく飼える動物からペットとのふれあいを実感し、ペットのいる生活の喜びを知ってもらうこと。それが将来的に犬の飼育へとつながることになる。」  
「ペットの飼育総数を増やすために、どのような活動をされていきますか。」  
「当工業会では昨年、『Engage』を掲げ、ペットの飼育の普及活動に取り組み始めた。この『56』という数字は、過去10年間で1回もペットの飼育経験のない人の数である。この56%の人を限りなくゼロに近づけ、ペットを飼うことの意義と効用を伝えていきたいと考えている。」  
「ペットを飼うことの効用は癒やし、健康効果、生活向上など科学的

的裏付けが成されている。また、ペットの飼育を通じて子供が直に命と向き合い、死生観が身につくことで、優しさ、思いやりの精神が助長されるだろう。」  
「そこで当工業会では、幼稚園・小学校でメダカや金魚、小鳥、小動物などを飼育することの重要性を呼びかけ、シンポジウムや冊子などで情報発信を行っている。」  
「また、高齢社会では、『氣にかけよう』対象としてのペットが、飼い主にとっての健康寿命延伸や精神の安定にもつながる。そこで問題になるのが、『最後まで世話ができないかも

「当工業会では今年3月、ペットフード協会とメッセフランクフルト・ジャパンと『第9回インターペット』を共催し、過去最高の4万4114人と1万7986頭のペットが来場するなど大盛況となった。犬をメインとした展示会で毎年好評を得ており、既に来年の開催も予定している。」  
「また、猫マーケットの掘り起こしを目指し、2日間で5000人以上の猫好きが集まる『にゃんたっけ』(年に2回開催)に今年から特別協賛しており、次回の8月にも特別協賛し、会員企業の出展を後押ししていきたい。」  
「さらに8月3、4日開催の『第16回パード&スモールアニマルフェア』や、来年開催の『第37回日本観賞魚フェア』などへの協賛もあり、犬猫だけでなく『オールペット』でのペット産業の活性化に

取り組んでいく。このほか、台湾ペット用品・フード協会との相互の展示会を通じた交流を今期も行う。会員企業の海外進出をサポートし、日本の安全安心なペット用品の普及を推進していく。「安全安心」という点では適合品

証マークの普及にも注力されています。『当工業会では、『ペット用品統一表示ガイドライン』に基づき、認証を受けた商品に印字できる『統一表示適合品証マーク』及び『観賞魚用ヒーター品適合品証マーク』を発行しており、

現在、加盟会員の6割以上が使用するなど普及が進んでいます。今、課題としているのは、即座、大型ペットショップ、全国量販店によるPB商品へのペットの普及だ。業界全体が消費者から信頼を得ていくためには、賛助会員になっていただ

「表示適合品証」を私どもと一緒にお願いしたい。」  
「今期の工業会活動については、ペットの飼育の関口を広げ、ペットの飼育未経験者への啓蒙活動が重要だ。『Challenges』の継続に加え、新たに飼育している人に向け

た仮称だが、JPPMA「エンリッチメント」の2つの活動に取り組んでいく。『統一表示適合品証』の付与商品を活用すること、あらゆるペット達が安全安心に、心身ともに健康で幸せな環境

での飼育が可能である」と勧める運動である。頭以外にも光や温度、ゲージの広さなどそれぞれの特性に合わせた環境を整える必要性を啓発していきたい。」  
「日本では、こうした考え方は犬では広がっているが、犬以外の他のペットではまだ普及

していない。私共は、犬猫はもちろん、金魚、メダカから文鳥などの小鳥、昆虫、ウサギなどの小動物、トカゲなどあらゆるペット達の用品の安全安心を、そしてその福祉を考えると必要がある。工業会会場でJPPMA「エンリッチメ

ント」の考え方を共有し、情報発信をしていきたい。」  
「やはり幸せなペットとの共生をみることで、『私も飼ってみたい』と思う人が増える。これからは『エンリッチメント』と『Challenges』を2軸で進めていくことが大切だ。」

「コアラランド」に最新ニーズを提案し、あらためて『キング』とのタイアップ展開。新たなCM放映を計画している。」  
「ウエットフードは1人の人が様々な商品を購入する傾向にある。従って新商品も手に取ってもらえるよう店頭露出を強めていく」

「コアラランド」に最新ニーズを提案し、あらためて『キング』とのタイアップ展開。新たなCM放映を計画している。」  
「ウエットフードは1人の人が様々な商品を購入する傾向にある。従って新商品も手に取ってもらえるよう店頭露出を強めていく」

「コアラランド」に最新ニーズを提案し、あらためて『キング』とのタイアップ展開。新たなCM放映を計画している。」  
「ウエットフードは1人の人が様々な商品を購入する傾向にある。従って新商品も手に取ってもらえるよう店頭露出を強めていく」